

# 平成29年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－8号)

農林総合研究センター  
平成29年7月18日調査

## 気象経過

< 平年対比 >

### 【平均気温】

- ・ 7月第2半旬は、金沢、輪島ともかなり高い (平年差：金沢+2.3℃、輪島+2.1℃)
- ・ 7月第3半旬は、金沢、輪島ともかなり高い (平年差：金沢+3.6℃、輪島+4.3℃)

### 【日照時間】

- ・ 7月第2半旬は、金沢、輪島ともかなり多い (平年比：金沢 214%、輪島 224%)
- ・ 7月第3半旬は、金沢、輪島ともかなり多い (平年比：金沢 189%、輪島 208%)

### 【降水量】

- ・ 7月第2半旬は、金沢、輪島ともかなり少ない (平年比：金沢 0%、輪島 0%)
- ・ 7月第3半旬は、金沢は少なく、輪島はかなり少ない (平年比：金沢 52%、輪島 12%)

### 【1ヶ月予報】

7月13日発表の1か月予報(7月15日～8月14日)では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

## 生育概況等

### 【本田の生育】

#### 1. 出穂期予想

7月に入り気温が高く推移したことから、前回調査時に比べ予想出穂期はやや早まっている。

ゆめみづほは、加賀地域では既に出穂期を迎えているほ場もあるものの、近年並～2日程度遅く、能登地域では近年並見込まれる。

能登ひかりは近年に比べ1日程度遅くなると見込まれる。

コシヒカリは、加賀地域は平年並～2日程度早く、能登地域は平年並と見込まれる。

ひやくまん穀は、コシヒカリの出穂期より10日程度遅くなると予想される。

#### 【予想出穂期】

ゆめみづほ 加賀： 7月17日～22日 (近年並～2日程度遅い)

能登： 7月22日頃 (近年並)

能登ひかり 能登： 7月26日頃 (近年より1日程度遅い)

コシヒカリ 加賀： 7月26日～31日 (平年並～2日程度早い)

能登： 7月30日～8月4日(平年並)

ひやくまん穀 加賀： 8月 5日～8月9日

能登： 8月10日～8月14日

#### 2. 草丈

コシヒカリで平年比102% (加賀地域101%、能登地域104%) と並。

ゆめみづほは、近年比100% (加賀地域100%、能登地域101%) と並。

#### 3. m<sup>2</sup>当たり茎数

コシヒカリは平年比106% (加賀地域106%、能登地域106%) と並、ゆめみづほは近年比108% (加賀地域108%、能登地域108%) と並となっている。

ひやくまん穀は、加賀地域が7月第1半旬、能登地域が7月第2半旬に最高分げつ期を迎えている。

#### m<sup>2</sup>当たり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

| 品種     | 地域  | 平年   | 前年                  | 前年比     | 株当たり |
|--------|-----|------|---------------------|---------|------|
| コシヒカリ  | 県平均 | 449本 | (平年比 106% 前年比 107%) | 24.8本/株 |      |
|        | 加賀  | 442本 | (平年比 106% 前年比 105%) | 24.1本/株 |      |
|        | 能登  | 460本 | (平年比 106% 前年比 109%) | 25.0本/株 |      |
| ゆめみづほ  | 県平均 | 530本 | (近年比 108% 前年比 107%) | 29.4本/株 |      |
|        | 加賀  | 532本 | (近年比 108% 前年比 108%) | 30.2本/株 |      |
|        | 能登  | 527本 | (近年比 108% 前年比 105%) | 19.2本/株 |      |
| ひやくまん穀 | 加賀  | 392本 | (移植 5月 6日)          | 21.9本/株 |      |
|        | 能登  | 430本 | (移植 5月21日)          | 22.8本/株 |      |

#### 4. 葉色

コシヒカリは前回調査時から低下し、4.0(葉色板値)と平年及び前年並となっている。  
ひやくまん穀は、前回調査時から低下しているが、コシヒカリに比べやや濃い、4.3(葉色板値)となっている。

#### 【病害虫の発生状況】

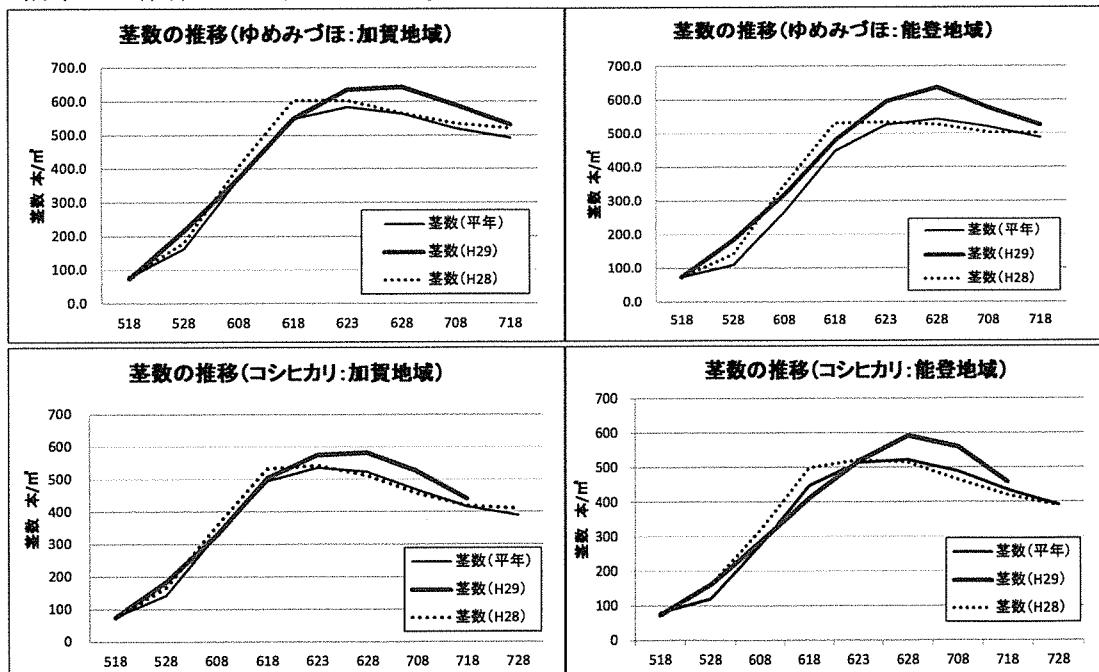
1. 雑草地におけるカメムシ類の発生は平年に比べ多く、特に飛翔性カメムシ類が多い。  
[病害虫発生予察注意報第2号(平成29年7月13日付)参照]
2. 葉いもち及び紋枯病の発生が散見されている。
3. ニカメイチュウの被害が散見されている。

#### 当面の対策

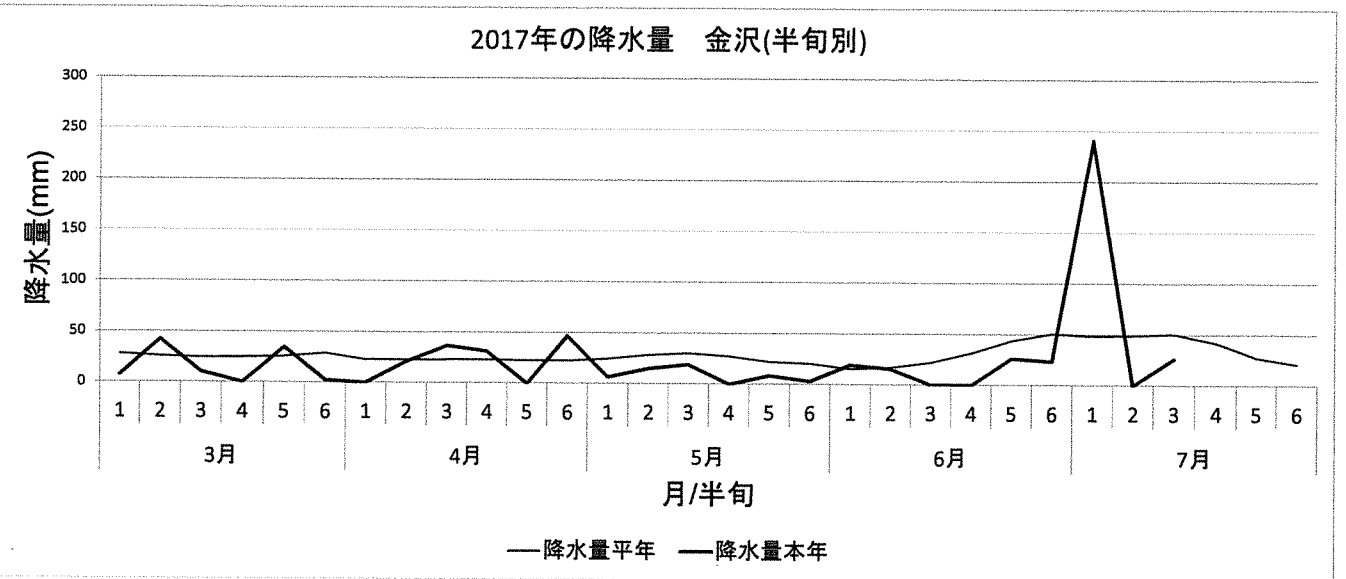
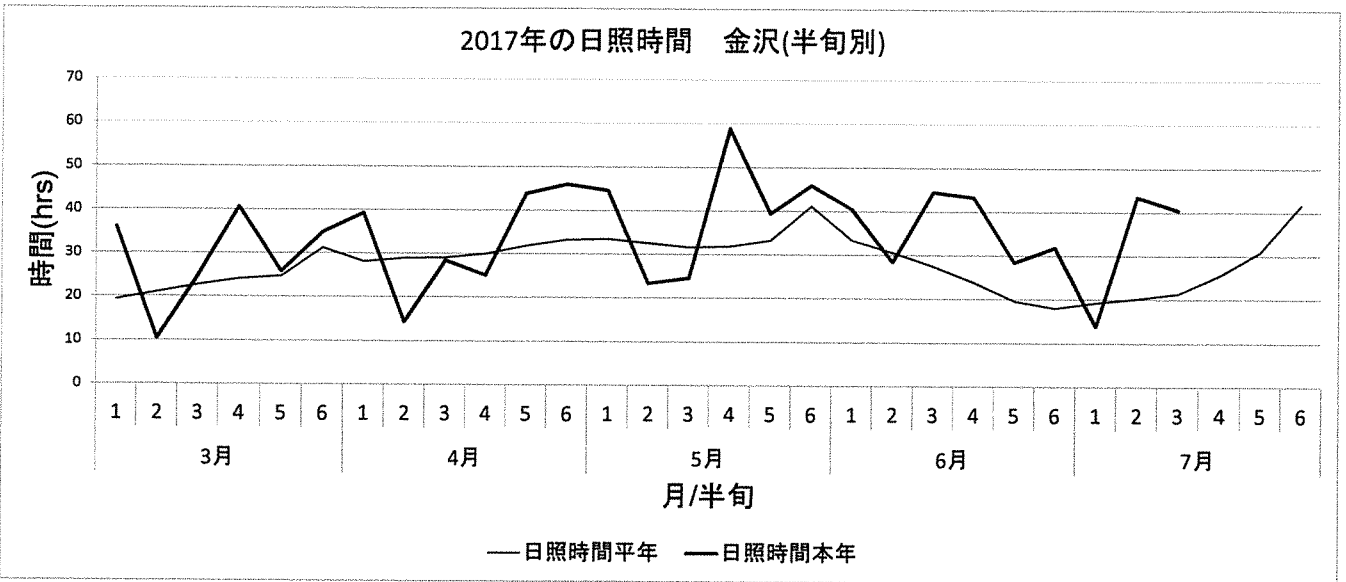
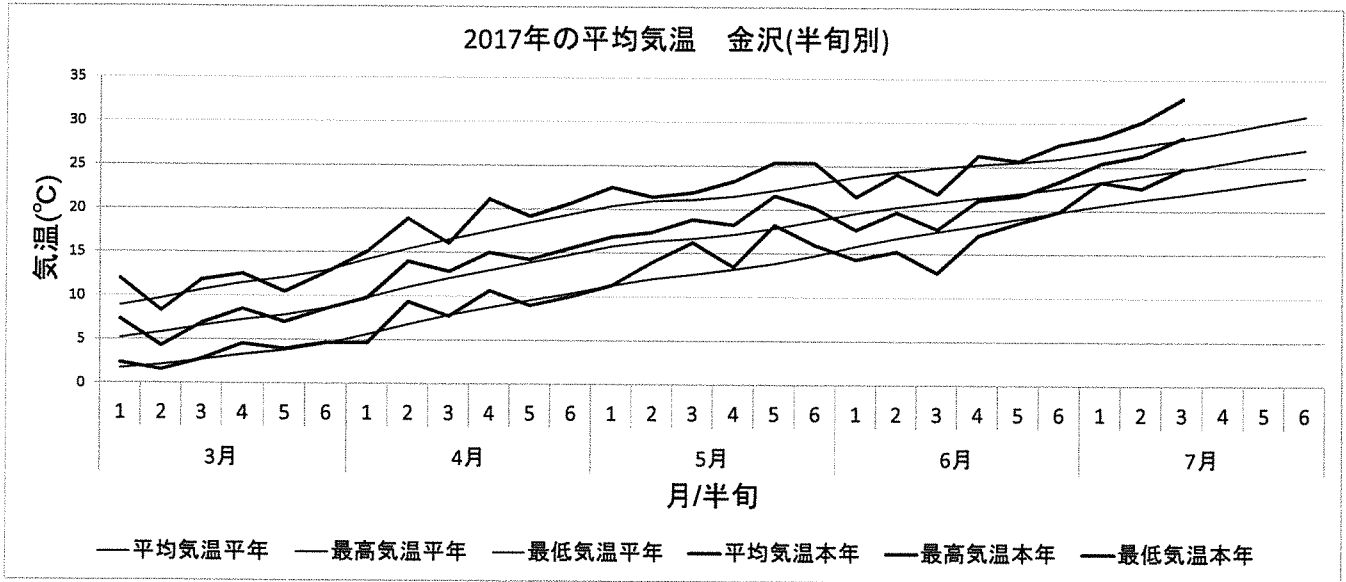
1. 早生は出穂期を迎えており、出穂後は登熟向上を図るため、間断通水(3~4日おきに通水)による飽水管理を刈り取り7日前まで行う。特に、登熟初中期(出穂後6~20日頃)に高温と水分不足が重なると、白未熟粒・胴割粒の発生を助長するので通水を徹底する。なお、強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ入水し、稲体の活力低下を防止する。
2. 用水をため池に依存している地域等では、計画的な用水利用に努める。
3. コシヒカリの2回目の穂肥は、高温条件下での稲体活力維持のため、地域の基準量を目安に適切に施用する。今後、出穂期が予想より早まる可能性があるため、適期を逸しないように稲体をよく観察し、遅くとも葉耳間長+2~3cm(出穂7日前)までに終了する。
4. 斑点米の発生を防止するため、7月中に出穂期を迎える場合は、出穂7~10日後と14~17日後の2回の本田防除を徹底する。また、8月以降に出穂期を迎える場合は、出穂7~10日後の本田防除を徹底する。  
なお、防除後もカメムシの本田侵入が確認された場合は、さらに追加防除を実施する。
5. 出穂後の畦畔除草はカメムシ類の本田侵入を助長するので、やむを得ず除草をする場合は本田防除の直前に行なう。
6. 穂いもちの発生を防止するため、葉いもち発生の有無に関わらず出穂前の基幹防除を徹底する。なお、葉いもちの発生を認めたら直ちに周辺ほ場を含めて防除を実施する。

#### <参考：地域別茎数の推移>

・ゆめみづほ、コシヒカリともに現在の茎数は平年及び前年並となっており、穂数は平年および前年並に確保される見込である。



# 気象経過イメージ (金沢気象台)

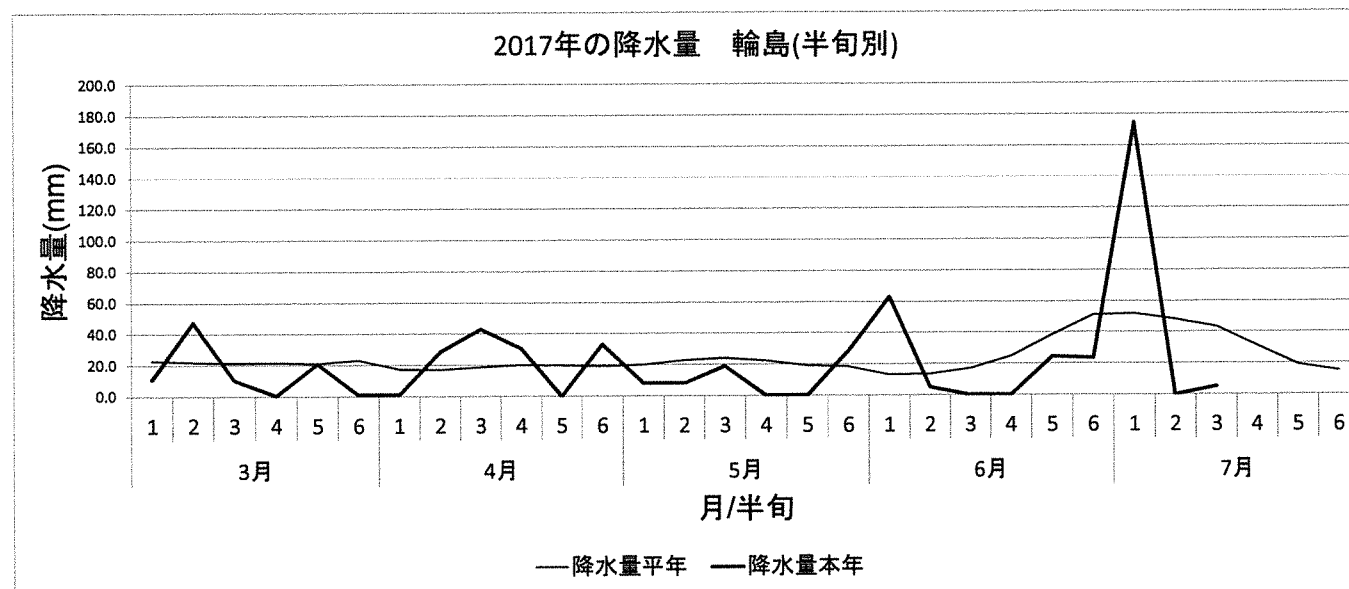
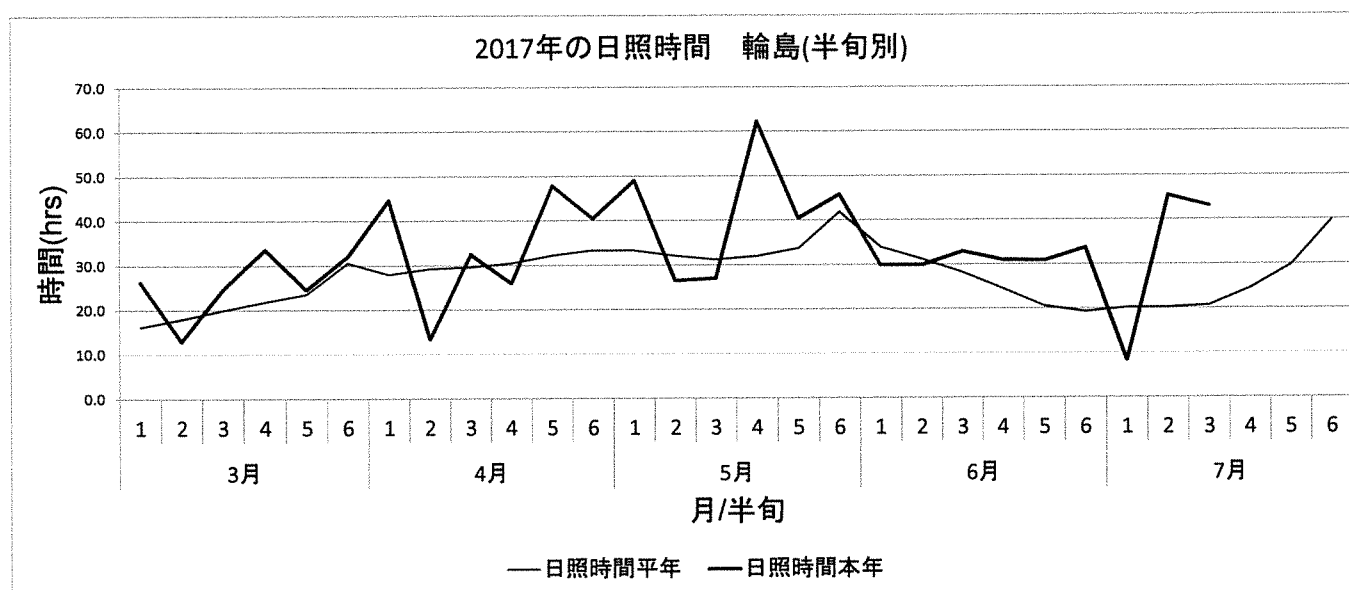
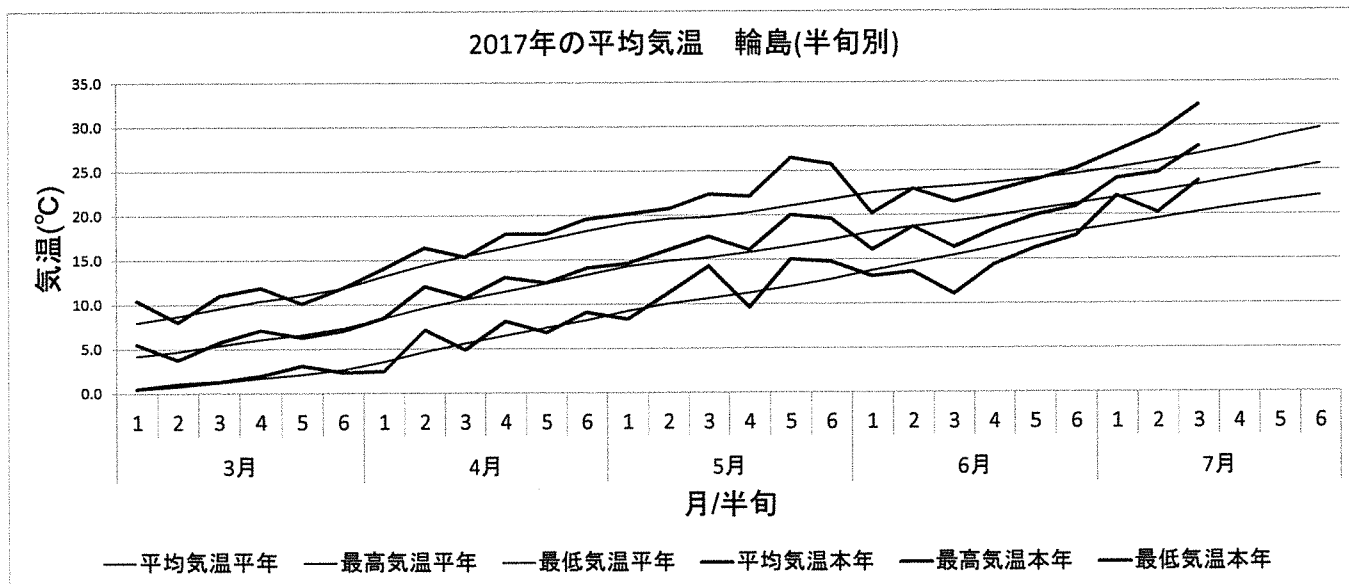


※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間(昭和56年～平成22年)の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

# 気象経過イメージ (金沢気象台)



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い